

令和5年度 第1回甲賀市観光振興計画審議会 会議録

【日時】令和5年10月30日(月) 14:00～15:00

【場所】まる一む 1階会議室

◎出席委員

名簿：別紙のとおり

◎事務局

産業経済部長 黒田芳司

産業経済部次長 近藤直人

産業経済部次長 三日月利安

観光企画推進課長 山本典彦

観光企画推進課長補佐 松井尚子

観光企画推進課主査 竹若紗穂

観光企画推進課主事 岡優希

◎次第

1. 開会

甲賀市市民憲章唱和

2. 委嘱状の交付

3. あいさつ

4. 自己紹介

5. 委員長、副委員長の選出

委員長挨拶

6. 報告事項

(1) 第2次甲賀市観光振興計画第2期実施計画の進捗状況について

7. その他

8. 閉会

次第1. 開会

甲賀市市民憲章唱和

次第2. 委嘱状の交付

次第3. あいさつ

次第4. 自己紹介

次第5. 委員長、副委員長の選出

委員長に和歌山大学の木川委員、副委員長に一般社団法人観光まちづくり協会の小山委員、同じく副委員長に信楽町観光協会の奥田委員を選出。

次第6. 報告事項

(1) 第2次甲賀市観光振興計画第2期実施計画の進捗状況について

事務局： 第2次甲賀市観光振興計画についての概要説明。及び、資料1 第2次観光振興計画第2期実施計画【成果指標実績】、資料2 第2次観光振興計画第2期実施計画【実施計画評価総括表】、資料3 第2次観光振興計画第2期実施計画【実施計画評価個別表】について説明。

委員長： Cの評価が一つありますが、来年度に向けての方向性とかはありますか。

事務局： 今年度について、ブランドの再構築というところまでは実施できなかったですが、行政だけでなく専門家の方にご意見をいただく機会を設けまして、次年度以降再構築していく部分について、協議させていただいているところです。

大河原委員： 資料1 第2次観光振興計画第2期実施計画【成果指標実績】の②誘客促進戦略進捗評価指標「年間外国人観光客」は、ツアーで来た方だけか、もしくは、個人旅行の方も含まれているか。どのような数字ですか。

事務局： 外国人観光客数だけではなく、観光振興計画の指標となっている数値は滋賀県の観光入込客数調査に基づく調査となっており、アンケート方式の調査となっております。観光施設から回答された数値の積み上げとなっております。

委員長： つまり、ツアーの方も個人客の方も入っているということですね。

事務局： はい。この観光振興計画の指標となっている数値は、コロナ前の数字を元に、コロナ禍での計画の見直しだったため、コロナが継続している前提の数字となっております。

委員長： 基本目標の入込客数目標について、実績値の309万人に、外国人観光客の目標55,300人を足すとちょうど314万人くらいになりますね。これを見ると、外国人観光客の回復が遅いから、目標値に達していないという見方もで

きますね。

事務局： 外国人観光客数は内数となっています。

小林委員： 観光ボランティアガイドツアーが目標値を上回り、昨年度よりも大きく増えているのはなぜですか。

事務局： 忍者や信楽焼、東海道のツアーいろいろありますが、令和4年度は二次交通の強化ということで、ガイド付きのタクシー事業を観光まちづくり協会様、信楽町観光協会様と連携して実施しました。そのため、例年より多くなっております。

委員長： では、今後どんどん増えていく可能性がある数値ということでしょうか。

事務局： 昨年度は委託事業で実施させていただきましたが、ツアーは造成できているので、今後も実施していただけたらと思います。

園田委員： 大阪万博で、近いところに世界中の方々が来られる状況に対して、外国人の方でもわかりやすいような案内やPRの仕方というのはどう対応予定ですか。

事務局： 大阪万博については、令和4年度の実施状況にも書かせていただきましたが、忍者の日である2月22日に大阪観光局様と甲賀市、伊賀市、両市の観光協会の6者で忍者を活用した広域な観光PRや促進の連携協定を結びました。また、今年度の9月には、大阪船場地域で万博を見据えたキックオフイベントを実施しました。現地でのPRをすすめるとともに、外国人観光客向けの受け入れ体制の整備として、日本遺産の各PR看板に多言語のQRコードを設置し、今年両観光協会とも連携して外国人観光客向けのツアー造成の委託事業を実施し、通訳の方をつけた体験プログラムやツアーの造成に取り組んでいるところです。来年度以降エージェント向けにPRできるように、旅行会社に対する提供資料も作成しています。

園田委員： 一つの意見ですが、そのような外国人観光客を受け入れる計画のなかで、市内には信楽焼やいろいろなお店があるので、外国人観光客の方がお店にきたときに対応できるような手助け等もあればいいと思います。

委員長： 今回は時間が限られていますが、来年度に計画の見直しがあるため、来年度は回数が多くなり、いろいろ話合っていただくことになると思います。今の甲賀市の状況を見ていただいて、外国人観光客の受け入れの部分やツアーの回復が遅れている部分など、詳細に見ながら改めて見直しをする必要があると思います。今日の資料に書いてある部分でも、それ以外でもご意見あればお願いします。

小山副委員長： 資料1の③地域活性化戦略進捗評価指標が観光協会の会員数（事務所・事業者）になっていて、甲賀市観光まちづくり協会としては、観光の産業化を図るため、会員の中でも事業者数を増やそうという動きがあります。令和3年度から令和4年度にかけて減っているが、会員の数え方が変わっていることもあ

り、指標設定の表示の仕方について工夫できないでしょうか。

事務局： 現在の指標は、見直しの際に作成したもので、段階的にあがっていく目標であったが、来年度はこの指標についても適切な見直しをさせていただきたいと思います。

奥田副委員長： 資料の中には見当たらないが、地域別の日帰り客や宿泊客数の数値などは調べていないのですか。

事務局： 今日の資料にはありませんが、入込客数調査では地域別の資料もございます。次回の見直しの際には資料を添付させていただければと思います。今年度、モバイルキャリアを使用した動態調査を市で実施しています。どこから来られているか、何で来られているか等もモバイルアンケート調査とビッグデータを使用した人の動きを把握する調査により数値をつかみたいと思っています。その資料も来年度の見直しの際には用意させていただきたいと思います。

奥田副委員長： 信楽町観光協会は現在インバウンドの誘客に力を入れております。香港やオーストラリアの旅行会社の方に来ていただいて、いろいろ周っていただき、ゴルフコンペはできないかという質問もいただいています。甲賀には、世界に通じる「忍者」というコンテンツがあります。京都へ行くと、90%外国人で、日本人がいると珍しいくらいです。外国人観光客がすぐそこにいるのに、なぜ甲賀まで来ないのか。そのあたりをもう少し根本的に掘り下げて、手で引っ張ってくる気持ちが必要だと思います。物語を作って、形にすることも大事だけれど、現実に行動にうつしていかないと。ものすごい数のインバウンドが近くにいます。おそらく外国人にとっては「忍者＝ジャパン」だと思っています。日本にきたらどこにでも忍者がいると思っているのではないのでしょうか。そのため、成田空港や羽田空港について、東京都内に行って忍者レストラン行って満足してしまう。その人たちに、ルーツの魅力を発信していかないといけないのではないのでしょうか。甲賀はまだまだ可能性はある場所だと思います。信楽焼といたら、国内ではブランド力があると思うが、二つの力を忍者と信楽焼、国内と海外協力し、インバウンド誘客につなげていく方法を考えていきたいと思っています。

委員長： 事前に事務局とも話しましたが、もう少し実態とはなんぞやというところを理解してまとめていく必要があると思います。例えば、インバウンドの人といっても、どういうインバウンドの人か、どういう困りごとがあるか、ゴルフ場のお客さまは外国人観光客の内のどれくらいか。数値をどうこうするよりも、何が問題かをあげることが大切だと思います。解決する必要がある問題をあげていって、その解決をどうしていくか。事務局は、見直しのタイミングでは、実態がわかるような資料をお願いします。現場にいる方は現場のことはよくわかってくださっていると思うので、全体のことがわかるような資料をもとに、問

題点を解決していけばと思います。本当は人口の減り方とかも入れて欲しいと
思っていて、観光としてどうできるか考えていければと思います。そのような
ことも含めて、今後みなさまと議論できればと思います。

次第7. その他

次第8. 閉会

以上 15時00分終了